

西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年10月31日現在

今月の重点活動

■ 令和5年度 農福連携西濃地域連携会議の開催

西濃地域では、令和2年度に農林事務所が主体となり農福連携会議を設立している。今年度は10月18日に大垣市西部研修センターで第1回農福連携西濃地域連携会議を開催した。

会議では、西濃地域で農福連携に取り組んでいる(株)アグリ・F・神戸と(株)アグリピアの事例を紹介すると共に、県等の推進体制や支援事業、10月28日に開催される「農福連携全国フォーラム2023inぎふ」等の情報提供を行った。

参加者からは、地域の取り組みを知って大変勉強になったという声が多く聞かれた。農林事務所では、農福連携について今後も積極的に支援していく。



【農福連携会議の様子】

西濃の農業・農村を支える人材育成

■ 女性農業経営アドバイザー 令和5年度 GLAMA いきいきネットワーク視察研修会を開催

10月30日に、令和5年度 GLAMA いきいきネットワーク視察研修会が JA いび川大野営農経済センターおよび揖斐総合庁舎で開催され、県内の女性農業経営アドバイザーや関係者を含め、70名が出席した。

本研修会は、西濃ブロック女性農業経営アドバイザーが昨年末から準備を進めていたものであり、工夫を凝らした手作り感あふれる研修会となった。研修会では、JA いび川の最新の柿選果システムの視察、家庭で簡単にできるお茶のおいしい入れ方、揖斐地域で栽培される柿の解説と試食を行った。また、西濃ブロック会員や GLAMA 会長から提供された農産物や水産物を使った昼食も提供され、大変好評であった。

今後は、西濃ブロック内での研修会も予定されていることから、農林事務所では引き続き女性農業経営アドバイザーの活動を支援していく。



【GLAMA 視察研修会の様子】

安心で身近な「西濃の食」づくり

■ 加工業務用キャベツ 関係機関とほ場巡回

8月に定植した加工業務用キャベツの結球が始まった。10月24、25日に全農岐阜、JA にしみの本店及び各地区担当 TAC、農林事務所各地域担当の3者で、キャベツの生育進度を確認し、栽培管理の注意点などの意識統一を図った。

今年度は、ハスモンヨトウの病害虫発生予察注意報が9月4日に発表されるなど、チョウ目害虫の発生が多く、キャベツの栽培ほ場では被害が継続している状況が続いている。今年から始めたオオタバコガの発生予察でも、飛び込みが多い状態が続いている。

農林事務所では、この調査結果をもとに JA にしみと連携し、メルマガや巡回指導で注意喚起を行っている。引き続き、キャベツの品質向上に向けた栽培支援を行う。



【ほ場巡回の様子】

西濃農畜産物のブランド展開

■いちご データ駆動型農業の取り組みが始まる

今年5月に「データ駆動型農業の実践・展開支援事業」を活用し、環境データ、収量データや病害発生状況を県内主要産地で収集・分析し、最適ないちごの栽培体系を明らかにすることを目的とした岐阜県いちごデータ駆動型農業推進協議会が設立された。

西濃管内では3戸の実践農家にてデータ収集を行うこととしており、9月22日にハウスに環境モニタリング装置を設置し、10月5日から生育調査を開始した。

農林事務所では、事業が円滑に進むよう引き続き実践農家の支援を行っていく。

■いちご 腋花房の花芽検鏡の実施

いちごでは、栽培管理や出荷時期を見極めるため、花芽分化の状況を確認する必要がある。9月に行った頂花房の検鏡では、花芽分化が昨年と同等にやや遅かったが、今回10月11日～16日に行った腋花房の検鏡では、平年並みに花芽分化が進み、年末年始にかけて連続出荷が期待された。

農林事務所では、厳寒期になり疲れによる草勢が低下しないよう積極的なCO₂施用や摘果の徹底などを呼びかけていく。



【花芽検鏡の様子】

■きゅうり 海津胡瓜部会本年産の初めての目揃会の開催

10月5日、JAにしみの海津中支店で海津胡瓜部会の目揃会が開催された。

全農岐阜、市場関係者からは、現在の販売状況や今後の販売について情報提供があった。

部会検査係からは、当日出荷された箱を任意に選択し、その箱をサンプルに害虫による食害・色・形状の確認を行い、目揃えをした。

農林事務所からは、9月の高温の影響により、コナジラミ類、ウリノメイガ等の害虫が平年より多く発生しているため、適切な防除について再度啓発を行った。



【目揃会の様子】

■カキ 出荷に向けた目揃会の開催

10月18日、南濃柿部会、養老果樹振興会は、それぞれカキの目揃会をJAにしみの南濃支店と養老中支店で開催した。

今年度、早生富有は10月30日から、富有は11月8日、陽豊は11月9日から出荷が始まる。

今作は夏期の高温の影響から、日焼け果の発生が課題となった。

農林事務所からは、カラーチャート値を守って収穫することを説明するとともに、次作に向けフジコナカイガラムシ、カキノヘタムシガ、炭そ病、落葉病、日焼け果の対策について説明した。



【目揃会の様子】